

協働のまちづくり大賞 事例集

平成29年度

平成30年10月

大分市 市民部 市民協働推進課

目 次

協働のまちづくり大賞について 1

29年度 受賞事例

【協働のまちづくり大賞】

○花と緑で活力のある地域づくり～耕作放棄地の解消とその有効対策の試み～
(NPO法人岡原花咲かそう会) 2

【優秀賞】

○犯罪や災害に強い、住みよいまちづくり (緑が丘連合自治会) 4

○つなげよう人の輪 (ふじが丘西区自治会) 6

○区報の定期発行による情報共有と地域住民のつながりづくり
(真萱自治会) 8

○安全安心なふれあいのまちづくり (花園自治会) 10

【奨励賞】

○地域で団らん「三世代交流昼食会」
(金池南2丁目・要町2町内会) 12

○荏隈広報紙「えのくま」(荏隈町自治会広報部) 14

○情報の共有化と活動場所の確保 (大道町3丁目町内会) 16

【その他応募団体】

○町名変更による地域活性化と絆の強化 (南下郡東自治会) 18

○町内活性化応援隊 (車座の会) 20

○西生石町内会「月々の回覧板でまちづくり活性化」
(NPO法人銀河鉄道) 22

協働のまちづくり大賞について

協働のまちづくり大賞は、市民の皆さまに、市内でどのような自治会活動が行われているかを知っていただき、まちづくりの参考にしてもらい、自治会の更なる活性化につなげていただきたいという思いから、平成23年度に創設されました。

平成29年度は「世代間交流」・「コミュニティの活性化」・「安全安心のまちづくり」・「青少年健全育成」・「地域福祉向上」・「日本一きれいなまちづくり」の6つのテーマを設けて募集を行い、11団体の皆様から応募をいただいたところです。

この度、平成29年度に応募のあった全ての活動事例をまとめた事例集を作成いたしました。

この事例集が、今後のまちづくりの参考となるだけでなく、今まで自治会活動に関心のなかった人たちにも自治会活動を知っていただき、関心を持つきっかけになればと考えております。

～テーマ別一覧～

【世代間交流】

- | | | |
|---------------|---------------|---------|
| ふじが丘西区自治会 | (植田地区 東植田校区) | (6ページ) |
| 金池南2丁目・要町2町内会 | (大分中央地区 金池校区) | (12ページ) |

【コミュニティの活性化】

- | | | |
|-----------|---------------|---------|
| 真萱自治会 | (鶴崎地区 松岡校区) | (8ページ) |
| 荏隈町自治会広報部 | (南大分地区 荏隈校区) | (14ページ) |
| 大道町3丁目町内会 | (大分西部地区 大道校区) | (16ページ) |
| 南下郡東自治会 | (大分南部地区 下郡校区) | (18ページ) |
| 車座の会 | (植田地区 賀来校区) | (20ページ) |

【安全安心のまちづくり】

- | | | |
|----------|--------------|---------|
| 緑が丘連合自治会 | (植田地区 横瀬校区) | (4ページ) |
| 花園自治会 | (南大分地区 豊府校区) | (10ページ) |

【日本一きれいなまちづくり】

- | | | |
|---------------|---------------|---------|
| NPO法人岡原花咲かそう会 | (鶴崎地区 明治校区) | (2ページ) |
| NPO法人銀河鉄道 | (大分西部地区 春日校区) | (22ページ) |

協働のまちづくり大賞

テーマ：日本一きれいなまちづくり

花と緑で活力のある地域づくり

～耕作放棄地の解消とその有効対策の試み～

(鶴崎地区 明治校区)

NPO法人 岡原花咲かそう会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

岡原自治会は、戸数約90戸、人口350名ほどの小集落である。農村地域であるが、少子高齢化が進み、年々耕作放棄地が増えている。地区全体が沈滞化する現状を打破すべく、平成7年より『おかばるを元気にしよう』を合言葉に有志が中心となって活動を始めた。

取り組み内容

この会は、地域内及び大分スポーツ公園周辺の環境保全や美化活動を通して、青少年・高齢者も交えた交流の場を設定し、社会教育の一翼を担いながら、地域づくりの推進に寄与することを目的としている。

耕作放棄地の有効活用の試みとして、①春秋の花公園づくり②栽培体験農場・農田の設営と、加えて③地域の環境保全・美化活動④花苗の育苗と公共機関への配付等を行っている。

①花公園づくりでは、前年の秋に約12,000㎡に6万個のチューリップの球根や花苗を植え付ける。植え付けには市民ボランティアや企業OB会・幼稚園・保育園、スポーツ少年団など約500人が参加している。3～4月の「チューリップまつり」には延べ約5万人が観賞に訪れるようになった。また、開花後のチューリップ球根堀りにも約200名が参加し、球根を無料で差し上げ、次年度に各家庭で花を咲かせる。

②栽培体験農場では、市内各地より約70家族と小学生・園児が参加しサツマイモの植え付け、除草、収穫の一連の活動を行っている。また、稲作体験は地区内の小学生が参加している。これらの活動にも延べ約1,000人が体験している。

③④は主に会員と地区住民の協力により、周辺地域の環境保全・美化に取り

組んでいる（周辺道路の清掃活動、スポーツ公園内花壇での維持管理活動）。花苗の育苗は、春と秋に植え付ける苗を育て、近隣の小学校・福祉施設に花苗約1,500ポットを年2回、無償で配付している。

チューリップによる「花公園づくり」は、平成19年大分市の企画提案型協働モデル事業の1団体に選ばれ、多額の補助金をいただいたことが契機となった。以来、年々活動範囲が広がり規模も大きくなった。現在は2019年ラグビーW杯に向け、花壇の中にラグビーボールの形をデザインして球根を植え付ける準備を進めている。

これらの取組が、環境保全・環境美化はもとより、子どもたちによる田植え・稲刈りといった取組が青少年の健全育成に、また、地域の高齢者が栽培した野菜の販売、収穫したサツマイモの老人ホームへの贈呈といった取組が高齢者の生きがい創出にも寄与するものと考えている。



活動の成果・今後の展望

ごみのないまち、花の咲くまちこそ真に求める《日本一きれいなまちづくり》と考える。大分市の掲げるスローガンはこの会の指標と完全にマッチする。

耕作放棄地及び休耕田の有効活用はもとより、沈滞気味だった地区に活気が蘇ってきた。住民400人にも満たない岡原に春には万を超える人々が訪れて花を鑑賞している。昨今ではこの期間を楽しみに待つ住民が多くなった。このように、地域コミュニティの再生や地域力アップに寄与していると思われる。

今後も可能な限り市民の期待に応えられるよう工夫を凝らし《癒しの場》の提供に努めていくとともに、この休耕田及び耕作放棄地を活用した「花による環境美化」の取組を市内の他の地域へ水平展開することで、大分市が推進する『日本一きれいなまちづくり』に貢献していきたいと考えている。



優秀賞（審査員特別賞）

テーマ：安全安心のまちづくり

犯罪や災害に強い、 住みよいまちづくり

（植田地区 横瀬校区）

緑が丘連合自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

人口減少が加速する中、住民の親睦や絆づくりを実現するにあたり、球技大会、まつり、敬老会、体育祭、文化祭などを開催しているが、それらを実行する母体には、安全安心のまちづくりは欠かせない。さらに、平成17年に児童が連れさらされる事件が他県であったことで、活動をはじめたきっかけとなった。

取り組み内容

- ・下校時の見守り活動では、団地内に設置している5基の放送塔からの生放送。
- ・自治会役員や6人いる防災士とは別に、有識者を中心とした約30人の防災リーダーを配備している。
- ・災害時に、玄関など道路から見える所に出すことで「無事である」という意味を表す「緑の輪」を全戸配布し、防災訓練を兼ねて使用訓練を実施した。これはオリジナル品であり、緑の輪が出ていない家庭は関係者が確認を行う。



活動の成果・今後の展望

- ・下校時の見守り活動放送は、防犯面からも大きな成果を上げている。
- ・各種のマップや表やアイテムは、住民の情報共有や行動指針として、活用されており、他地区にも参考となると考えられる。



優秀賞

テーマ：世代間交流

つなげよう人の輪

(植田地区 東植田校区)

ふじが丘西区自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

自治会発足から40年が経過し、住民の高齢化や若い世代の地域離れが進み、地域内の繋がりが疲弊してきており、また自治会活動も高齢化が進み、参加者は固定され、現役世代の参画は皆無に近い状態であった。

そのため地域住民同士の繋がりを深め、安心して暮らせる地域づくりのために世代間交流の活性化が喫緊の課題であった。

取り組み内容

- ①マスコミを活用したコミュニティ活動・地域力の活性化
 - ・自治会活動をマスコミに報道してもらうことで、住民の地域愛の醸成、地域力の底上げを図った。
- ②自治会活動支援組織「一ふじ会」組織規約改定
 - ・自治会活動に、より多くの現役世代(30~65歳)が参加することを目的に自治会行事を休祭日に実施するよう規約を改定した。
 - ・現役世代のお宅に訪問し、面談を行うことで、自治会組織に参加してもらうことに成功。現役世代の防災救護訓練や地域懇談会への参加促進を図った。
- ③自治会発足40周年、公民館建設30周年に伴う「ふるさと祭り」「アガパンサス鑑賞祭」の実施
 - ・実行委員会の設置。
 - ・会場の設営、のぼり旗40本の設置、祭り用法被を用意。
 - ・情報共有の為にチラシの発行。
- ④世代を超えた交流活動の促進
 - ・「ふるさと祭り」「ふれあい敬老会」の同時開催。子どもから高齢者まで幅広い世代の交流を図った。

- ・安心安全の地域づくりのために会議を実施。警察、防災士、民生委員、支援センター、子ども会会長といった役員を集め実施。

活動の成果・今後の展望

①活動の成果

- ・現役世代の地域離れが顕著の中、自治会活動支援組織の規約の改定によって、現役世代の自治会行事への参加者が多くなった。
- ・ふるさと祭り実行委員会の設置により、様々な会と連携し、人と人との繋がりが深まった。
- ・防災訓練を兼ねた炊出し、防災グッズの抽選会を行い防災意識の高揚が図れた。
- ・マスコミを活用して自治会活動が報道されることにより住民の自治会活動への関心が高まり、誇り、地域愛が醸成された。

②今後の課題

高齢化が進み、避難行動要支援者は増加することが考えられ、また自然災害も危惧されるなか、住民同士が支え、支えられながら安心して暮らせる地域づくりをしていかなければならない。今後も地域住民の思いに沿った活動であるかを検証しながら活力ある地域コミュニティづくりを推進したい。



優秀賞

テーマ：コミュニティの活性化

区報の定期発行による情報共有と 地域住民のつながりづくり

(鶴崎地区 松岡校区)

真萱自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

当地区は 400 名程度の自治区であり、古くからの住民も多いため年配者はお互い顔見知りであるが、若者世代とは結びつきが薄い状況であった。

世代を超えたつながりづくりのため、まずは地域の情報を全住民が共有し、協力する体制づくりが必要と考え、そのための手段として区報を定期的に発行することとした。

取り組み内容

自治会の役割は、旧来の問題発生後の対応だけでなく、近年は地域づくりとしての役割も求められている。「地域づくりはつながりづくり」が重要と考えているため、しっかりした自治会組織づくりや、執行部が何を考え、何をしようとしているかを住民に伝えるために、当自治会は以下の対応をしている。

- ・区報を毎月全世帯に配布し、地域の状況や当月の活動報告、来月の行事予定等を周知している。地区独自の行事や校区行事などは、その都度回覧版で周知し、参加の呼びかけをしている。
- ・区長の考えを伝えるため、「区長メッセージ」として区総会時に文書として配布している。その中で、自分たちでできる事は自分たちで行い、皆で協力して汗をかくことが地域づくりであり、その雰囲気づくりが自治会の役割であるとの認識を住民に伝えている。
- ・活動費確保と協力体制づくりのため有価物回収を毎月実施しているが、住民の協力で短時間で終了できている。
- ・区報は自治区情報のみではなく、校区情報や防災情報等も記載し、毎月上旬に作成し（A4版）15日号の市報にあわせ配布している。
- ・行事広報は行事開催日の2～3週間前に回覧し、参加者を募っている。参加者が少ない場合は青年部、婦人部や老人クラブ等に参加要請している。

活動の成果・今後の展望

区報発行の継続や広報活動を徹底することにより、以下の効果が出てきている。

- ・自治会活動への協力者が増加しており、校区行事でも当自治会の参加者は他地区に比べ多い。
- ・区報の中で住民へ困りごとがないか呼びかけをすることにより、情報収集ができたと同時に、自治会執行部が迅速に対応することができ、ハード整備に関する要望はほとんどが解決した。
- ・有価物回収作業は毎回10～15名が整理作業に参加しており、住民協力意識の醸成や活動費の確保、限られた資源の有効活用に役立っていることから、今後も継続していきたい。なお、平成29年8月に大分市長から「ごみ減量・リサイクル推進及びきれいにしようえおいた推進事業優秀団体」として表彰された。

※有価物集団回収団体は600団体以上あり、真萱自治会はそのうち、活動月数や回収量の実績により表彰された優秀団体10団体のうちの1団体である。

人と人とのつながりづくりは自治会活動の原点であり、そのためには「住民の声を反映できる組織づくり」や「信頼される自治会づくり」にさらに工夫が必要と考えている。



優秀賞

テーマ：安全安心のまちづくり

安全安心なふれあいのまちづくり

(南大分地区 豊府校区)

花園自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

熊本・大分での震災、大雨時の状況、子どもの通学時の安全等に関して、集会等で話題に上がるようになった。

取り組み内容

1. 花園自治会防災・避難ガイドの作成

花園自治会の地震発生や、大分川氾濫時の避難場所、地震・台風・大雨による浸水等の避難基準の周知徹底を図るため、パンフレットを作成し全戸に配布。さらに豊府校区内の自治会やその他の自治会にも提供した。

2. 大分川の氾濫防止対策と少年のたまり場対策の実施

元町内会長や阪神淡路大震災の経験者、班長、民生委員等有識者による「花園自治会防災の在り方・課題について」の会議を開催。河川敷のゲートボール場に小屋・大型家具等が10年以上放置され、少年たちのたまり場にもなっており、早急に対処すべきとの意見があったことから、廃屋4棟をはじめ放置自転車40台、大量の家具等を片づけた。

3. 交通安全対策

(1) 通学路の整備

通学路に農業用水路が接しており、子どもの転落等が発生したため、大分市に依頼し、側溝蓋を設置した他、危険個所の工事を行った。

(2) カーブミラーの設置等安全対策

交通危険個所のカーブミラーや交差点の交通安全看板の設置のほか、子どもが登下校時近道をし、ブロック塀を乗り越え危険との声があったため、地権者と調整を行い、通学路を確保した。

(3) 交通安全意識の高揚等

高齢者の交通安全意識の高揚対策として、敬老会において警察官による交

通安全・詐欺被害防止等の講話を実施したほか、警察本部音楽隊の演奏活動による安全意識の高揚を図った。

4. 救急蘇生法の講習会とAEDの設置

消防局の協力を得て、公民館を活用する高齢者・児童・保護者を対象に救急蘇生法の講習会を実施し、公民館にAEDを設置した。

5. 芋ほり体験会

児童を対象にジャガイモ・サツマイモの芋ほり体験会を実施。同時に警察官による交通安全講話・パトカーの体験乗車を行い安全意識の高揚を図った。

6. その他の安全対策

- (1) 九州電力の電柱が倒壊の危険があり、電柱の建て替えを依頼した。
- (2) 花園自治会作成の「防災・避難ガイド」

自治会内の各家庭に分かり易く、どこでも表示できるように作成。また、他の地域で応用ができるよう工夫した。

活動の成果・今後の展望

これまでの活動で各種機関の協力もあり、いくつかの問題点が解決されたとともに、役員をはじめ地域に安全・安心について関心が高まってきた。意見交換会や班長会等の会合を重ねることにより住民の意見を十分にくみ取り、役員が一丸となって対応することにより連帯感が生まれ信頼関係が築かれることで、問題点の早期解決を図っている。そのために市と自治会が常に連携し、協力し合い、相手の立場に立って知恵を出し努力をすることが肝要である。いつ何時如何なる時でも主権は住民であり、そのために組織は弛まぬ努力を惜しんではならないと考えている。

(災害に備える花園)

花園自治会 防災・避難ガイド

地震発生
机の下にもぐる
揺れが収まるまで
動かない

1分～2分
電気の安全確認
火災確認

3分
事前に注意
窓ガラスの破け

5分
TV等で正確な情報
避難を判断する

5分～10分
避難

南海トラフ巨大地震 ●津波高 6～8m ●津 深 7m以上

参考：花園地域は海拔6m～10mの範囲です

1105-11-13
花園自主防災会

災害分類と対応

災害分類	避難の目安	備 考	避難所
地震	震度区分	テレビ情報	指定避難所
	震度5弱	緊急地震速報	指定避難所
	震度5強以上	携帯地震速報	指定避難所
	震度6以上	携帯地震速報	指定避難所
南海トラフ	津波	津波速報	指定避難所

★ 事前に予想が可能な災害です。 早めの避難行動が大切です。

災害分類	避難の目安	備 考	避難所
大分川氾濫	水位	水位計	指定避難所
	水位50cm	水位計	指定避難所
	水位100cm	水位計	指定避難所
	水位150cm	水位計	指定避難所
浸水(内水)	浸水の深さ	水位計	指定避難所
	浸水の深さ	水位計	指定避難所
台風(暴風)	風速30m以上	テレビ情報	指定避難所
	風速30m以上	テレビ情報	指定避難所

災害時連絡カード

分類	氏 名	連 絡 先
班長①		
班長②		
広報係(連絡係)		
広報係(連絡係)		
班長委員		
自治会長		
行務(大分市)	市・防災危機管理課	097-537-5664
行務(大分市)	市・河川課	097-537-5632

目標からの備え ● 家具の固定 3日分の食料(水) 非常持ち出し品 準備



奨励賞

テーマ：世代間交流

地域で団らん「三世代交流昼食会」

(大分中央地区 金池校区)

金池南2丁目・要町2町内会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

○新たな住民を巻き込んだコミュニティを

金池南2丁目・要町2は大分駅周辺総合整備事業（平成8年～）により、中高層マンションが林立する地域へと変化した。住民層の入れ替わり・若返りにより地域が活気づく一方、戸建は減少し旧来の町内会組織の高齢化が進むなか、新たな住民層を巻き込んだコミュニティの必要性を感じていた。

このようなことから、例年、町内会で行っていた研修旅行に代え、子ども・保護者・高齢者を含めた三世交流昼食会を企画した。

取り組み内容

○「三世代交流昼食会」

交流昼食会を開催し、幼児9名、小学生25名、中学生4名、高校生1名、保護者29名と年長者の町内会役員を合わせ、78名が参加した。

①防災講話

はじめに、町内の防災士により地域防災の現状についての講演を行った。東日本大震災のふり返り、南海トラフ地震の被害想定、地域の備蓄品の状況、避難所、避難場所、津波避難ビルなどの説明を受け、参加者それぞれが自分の命を守るために必要なことを考えた。

②昼食会と全員参加の「ビンゴゲーム」

防災講話後、食事をしながら住民同士で親睦を深めた。足を運んでいただいた皆さんにお土産のひとつでも、ということで、食事とともに子どもを中心としたビンゴゲームを行い、豪華景品を狙い保護者やお年寄りも一緒になって楽しむ大盛況の催しとなった。

○若い世代を活かす町内会運営

子育て世帯が多い本町では子ども会に100数名が加入している。町内会で

は若い世代の意見を取り入れるために、子ども会代表者に役員として町内会義に参加してもらい、共に町内会運営に取り組んでいる。子どもが喜ぶことは親が一番分かっているところであり、また、このように若い世代に地域の行事を任せていくことが次世代の人材育成につながっていくと考えている。

○子どもの出番づくり

子ども会からの提案により、昼食会では子どもたちが中心となって受付やゲームの進行、景品の配布を行った。子どもが「ただのお客さんではなく、それぞれ役割をもった一員」として参加することで良いまなびの場にもなった。

○プラスワンで防災力向上

町内には5名の防災士がおり、日頃から積極的に地域防災に取り組んでいる。しかし、防災講話を単独で実施してもなかなか住民の参加は捗らないので、こうした交流行事にあわせて行うことで、地域の防災への意識を持つことを積み重ねている（防災士からの提案による）。



活動の成果・今後の展望

○世代を越え、新旧住民が顔の見える関係に

企画の結果、参加者からは「ご近所とのコミュニケーションが図られ楽しい時間が過ごせた」と非常に好評であった。不参加の方々からも「次回はぜひ参加したい」との声が上がっている。

また、参加者同士、顔なじみとまではいかずとも、同じ町内に住んでいるお互いの存在を覚えることができたと思われる。町内会では「好評だったから今度は新年会をしようか」などと明るい話題が生まれている。

駅周辺整備により、マンションと戸建、新住民と在住民、子育て世代と高齢者世代に隔たりがあった町内であったが、交流昼食会で皆一緒に楽しめたということがその差を忘れさせてくれた。初めての試みであったが、とても価値のあるものだった。今後もこういった企画を通して、顔の見える地域をつくっていききたい。



奨励賞

テーマ：コミュニティの活性化

荏隈広報紙「えのくま」

(南大分地区 荏隈校区)

荏隈町自治会広報部

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

町内回覧はあるが、市役所等の回覧物と一緒にいるため、町内各種の情報が流されがちであった。そこで、町内住民に必要な情報をぜひ認知、ひいては周知してほしいという声があったことから。

取り組み内容

毎月1回発行。町内全戸配布（市報とともに配布）。

- ①周知しなければならない事項の情報発信
(防災、清掃、町内の問題、町内行事、弔事等)
- ②町内行事の実施報告
(不参加者への情報発信、共助の認識の向上のため)
- ③交通安全、防災、市行事等の参加促進
- ④紙面作成のための情報収集
- ⑤文芸作品の掲載
- ⑥予告欄で町内住民の関心度を高める

ポイントとして、

- ・回覧の一過性をフォローするため全戸配布とした。
- ・開催された行事内容の報告、今後予定行事の予告、町内のお知らせ、交通安全・防災等知識の周知、慶弔事項等を紙面の表面だけでわかるようにしている。
- ・裏面は主に文芸を中心に住民の投稿による内容とし、楽しさを盛り込んだ内容にしている。
- ・平成21年より町内老人会で会報誌「のうかつ」を月に1度作っていた。徐々に会員の投稿が減ってきたところに上記の地域課題の話が上がってきたことから、老人会メンバーを含め今まで自治会内になかった自治会広報部を発足した。

奨励賞

テーマ：コミュニティの活性化

情報の共有化と活動場所の確保

(大分西部地区 大道校区)

大道3丁目町内会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

当町内は、市内中心部からほど近いことからアパートやマンションが多く、戸建住宅は、世帯の僅か13%と極めて少ない。また、戸建住宅の空き家は増加傾向にある。

アパートに住む住人の方に、町内ひいては校区で何をしているのか、どんなことが起き、どんな課題があるのかを知って欲しいと願っている。住民同士の交流を深め、相互に知り合うこと、共同して町内行事を楽しむことはできないかと考え活動を行った。

取り組み内容

地域の課題を解決するため、①情報を提供し共有すること②活動母体の育成③集まれる場の創設を重点に、次の3点を実行した。

- ① 町内会だより「いちにの3丁目」の発行。
- ② 青年会・婦人の会の設立、育成。
- ③ 自治公民館の創設。

- ① 町内会だよりの発行を行ったことにより、町内の行事や出来事の情報に住民に伝わるようになり、町内会の活動等に対する多くの感想が町内会へ寄せられるようになった。作成時は見やすい紙面を心がけており、町内行事の広報はもとより、町内の課題・問題を提示し、併せて解決策を掲載することによりトラブルの防止、問題の解決に役立っている。また、防災マップの作成を行った。
- ② 婦人の会「寄り道の会」ができたことにより婦人の会内での交流が盛んになった。会員は10名を超え、日頃はあまり交流のないマンションの入

居者も入会した。他の組織との交流もできるようになり今後の活躍が期待できる。また、老人会等の他の組織との交流が町内会の活性化につながっている。青年会はいまだ創設できていないが、創設のための働きかけにより住民の積極的な行事参加が増えている。

- ③ 町内の方からの場所提供による自治公民館ができたことにより、住民の交流・活動の場ができた。町内会のスムーズな運営、住民の活発な交流が可能となり、町内会の活性化に役立っている。

活動の成果・今後の展望

広報による住民への情報の伝達はうまくいっている。今後はさらに多くの住民が町内会へ目を向けるよう、広報の内容や方法の検討を行いたい。

婦人会の創設は町内会にとって大変プラスとなった、同時に青年会等の立ち上げも引き続き働きかけていきたい。実現すれば、町内会の大きな力になろう。

自治公民館を開設し無償で場所の提供ができるようになったことより、マンションの住民の目が町内会に向いてきたと思う。今後は講座等の開設も考えていきたい。

これまで多くの成果も上がってきているが、やり残している事はたくさんある。今後も活動内容を検討し、住民皆が和気藹々、楽しく仲良く暮らせる地域づくりに貢献していきたい。



テーマ：コミュニティの活性化

町名変更による地域活性化と 絆の強化

(大分南部地区 下郡校区)

南下郡東自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

自治会がバス通りを境に東西に分かれて住居表示が異なり、公称と通称が入り混じった状態であった。住民が各種証明書をとる際や、宅配便や郵便の送付時、救急車や消防車が現場に向かう際など、わかりにくい・不便なことが多かった。

取り組み内容

住居表示の変更を関係機関に要望することを決定した。先進地視察で具体的手法の取得に努めたほか、市役所の関係課で関連法規、具体的手法、対応策、解決策等を勉強しながら、関係各課とのつながりを構築した。反対意見の人達については各戸を訪問して説得し、アパートについては所有者、管理会社を訪ねて回って説得にあたった。

住民参加形のまちづくりには住民の合意形成が最重要なので、どの手法を取るか等を入念に調査して各方面に対策を講じた。

住民の合意形成に約2年半かかったが、期間中32回の回覧と市役所担当課による説明会を2回行い、住民の合意形成に努めた。



活動の成果・今後の展望

宅配便や郵便の遅配、誤配が解消された。

地元業者からの寄付により南下郡東全体の案内板を2枚設置できた。

以上のことにより地域住民が安心感を持てるようになった。連絡をしやすくなったことで自治会としては地域活動をしやすくなった。そこで、町名変更実施を記念して祝賀会を「実行委員形式」で実施。当日は地区民が多数出席して会場がいっぱいになった。祝賀会では「祝儀舞」「祝吟」「ダンス」等を地区民が一体となって受け持った。また「異業種交流の場」として情報交換も行い、大いに盛り上がった。この祝賀会を通して地区民同士の信頼関係が「絆」となって二重の喜びとなった。



テーマ：コミュニティの活性化

町内会活性化応援隊

(植田地区 賀来校区)

車座の会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

団地内の若い世代の減少や高齢者の増加により、自治会事業の参加者が減少している。

住みよいきれいな団地を維持するため、住民の集える場を作り、顔見知りになり、親睦を深めることで住民同士が良好な関係を構築でき、自治会事業も活性化するのではないかと考え、有志で同会を立ち上げた。

取り組み内容

1. 医大バイパス沿いの法面の草刈り（年3回）、景観の保全
 2. 竹灯籠にろうそくを灯す「竹彩夜」（たけいろや）を団地内の公園で開催（毎年10月）
-
1. 以前は荒れた斜面だったが、紫陽花やさつきを植栽し、地元やバイパスを通る車のドライバーから喜ばれている。
 2. 毎年竹灯籠のオブジェのテーマを決め、材料集めから製作まで行っている。さらに、見物人のためにおでんと豚汁をつくり、会員で構成されたバンド演奏を披露する中で竹の明かりを楽しんでもらうイベントを10年間継続している。小学生にはろうそく点灯の手伝いをお願いしている。

活動の成果・今後の展望

若い層の人たちや日頃接する機会の少ない住民との交流は、好評を博している。ここ数年で若い夫婦が見受けられるようになったが、その若い世代の活動により地域に潤いができていることを認識している。今後の地域の活動を担っていくことができると願っている。



テーマ：日本一きれいなまちづくり

西生石町内会「月々の回覧板で まちづくり活性化」

(大分西部地区 春日校区)

NPO法人 銀河鉄道

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

西生石町内会は、高齢化が緊急課題であった。そのため、人の交流を主としてサロン老人会を再構築し、地域の活性化や高齢者世帯の手助けを目指して活動を始めた。

取り組み内容

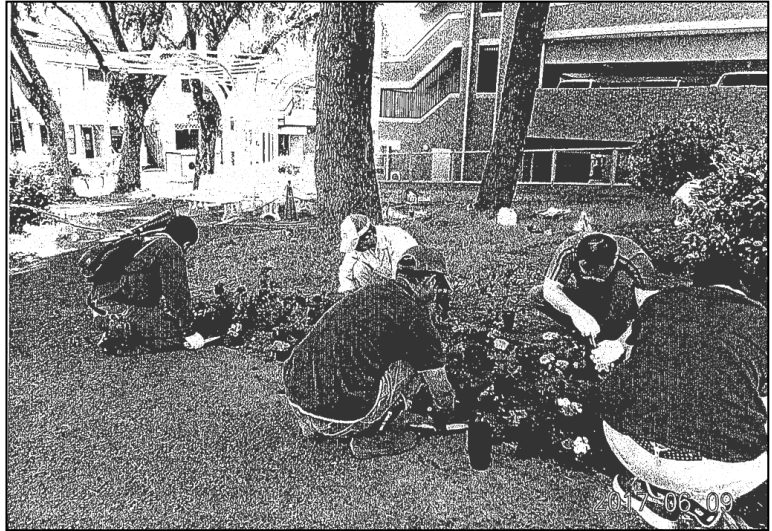
第一日曜日朝9時より廃品回収と町内清掃を実施。

- ① 春・夏、歩道の草取り。
- ② 地域駐車場等の草取り。(年2回)
- ③ JR 西大分駅前緑地公園の花の植替。(6・12月)
- ④ 国道10号線添いの角地の樹木の剪定。(見通しが悪く自転車の出会い頭事故の危険性があるため)
- ⑤ 高齢者宅の樹木の剪定。

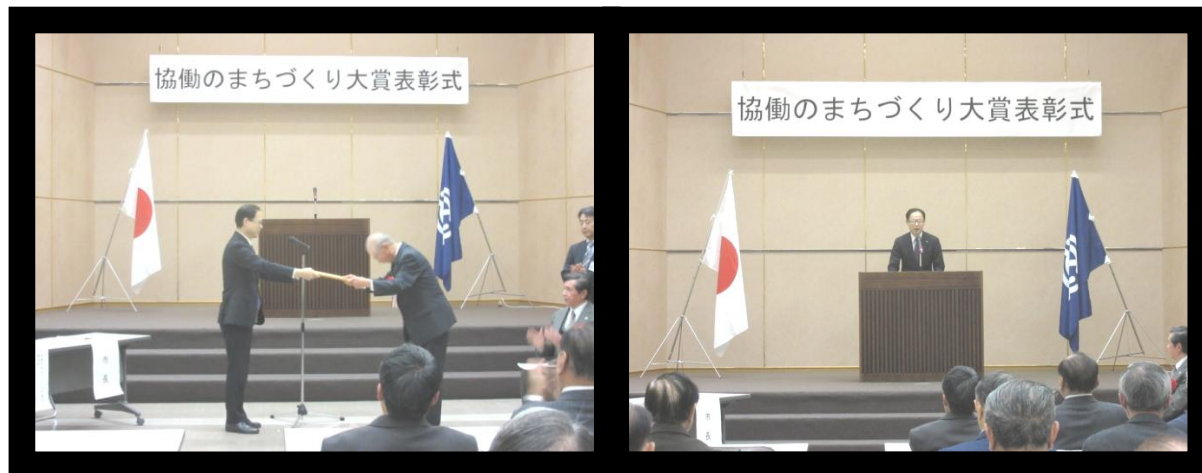
廃品回収を含めた第1日曜日の清掃美化活動を町内会の方々と共に実施している。協同で作業することにより、安全にかつ短時間で作業が終わるようになった。また、町内の方々と交流することにより、地域住民との連帯感が生まれた。この交流は災害時での救助活動にも役立つと考える。

活動の成果・今後の展望

資料の写真の様に、町内会ともども交流の輪が広がっている。地域の美化、整備に努めることにより、町内のみならず遠方より散歩コースに当公園に立寄ってくださる方にも出会えるようになったり、地域にお店が以前より増えたり等、活性化にも役立っていると自負している。



平成29年度 協働のまちづくり大賞



問合せ先

大分市 市民部 市民協働推進課

電話：097-537-7251